Draw a Dream

夢をみた話

作・絵　関美星

夢を見た。

楽しい夢だった

怖い夢だった

わくわくする夢だった

不気味な夢だった

続きが見たい夢だった

誰かに話したい夢だった

どこかで見たことのある夢だった

季節は夏だった

夜、実家のリビング

ブロンドの少女に手を引かれ、庭へ出た

雪が降り積もっていた

松の木の奥、梅の木の手前

優しい目をした仔象がいた

寒さは感じなかった

象の庭

1, 雪が降る実家の庭

他の夢では、自分がどこの風景を見ているのか分からないことも多いが、この夢だけは実家の庭だとすぐに気が付いた。
庭に出る前は確かに夏だった。でも、玄関には厚手のコートやスキーウェアが用意されていた。
防寒着に身を包んで庭に出ると、雪が降り積もっていて空気もひんやりと冷たかった。
綺麗な積もり方をした雪は真っ白で、実際に実家の庭に積もる土の混ざった茶色の雪とは大違いで幻想的だった。

2, 佇む仔象

なぜか仔象がいた。実家の庭は象が入るには窮屈と思う。でも、仔象は大人しく庭の隅で佇んでいた。
動物に関する知識は何も持っていないが、それでも「触れられそうだ」と分かり、触れてみた。
私たちに撫でられても大人しくしている優しい仔象だった。
後々調べて知ったが、象の夢は幸せの象徴らしい。あの仔象は私に何か吉報を届けにきてくれていたのかも知れない。

3, 綺麗な夜空

現実では、『雪が降っている』ということは『天気が悪い』ということ。雪国生まれ、雪国育ちの私にはよく分かる。
でもこの夢では、あるはずの雲が一つもなかった。夜空には月が輝いていた。星もよく見えた。
冷静になると大きな矛盾点に感じるが、夢の中ではそんなことには全く気が付かず、私は雪と仔象の存在に歓喜していた。
幻想的な風景は、まさに『夢』そのものだった。

4, ブロンドの少女

絵には描かれていないが、ブロンドが印象的な少女がいた。小学生くらいの細身で愛嬌のある子だった。
家の中にいる時からから私の手を引いて、庭まで一緒に駆けていった。
私の実家はホームステイを受け入れた経験もないし、身近な知り合いや海外旅行で出会った人の中にも、彼女らしき人物がいない。
恐らく現実で会ったことはないと思う。だからこそ気になる。彼女は一体何者だったのだろう。

配色パレット

#887fab　#ac89d1　#b5a8e5　#ac89d1　#4a4e77　#dbdde7　#92bed6

雑多に立ち並ぶ飲食店

忙しなく行き交う人々

色んな音が絶え間なく響き

色んな匂いが混じり合う

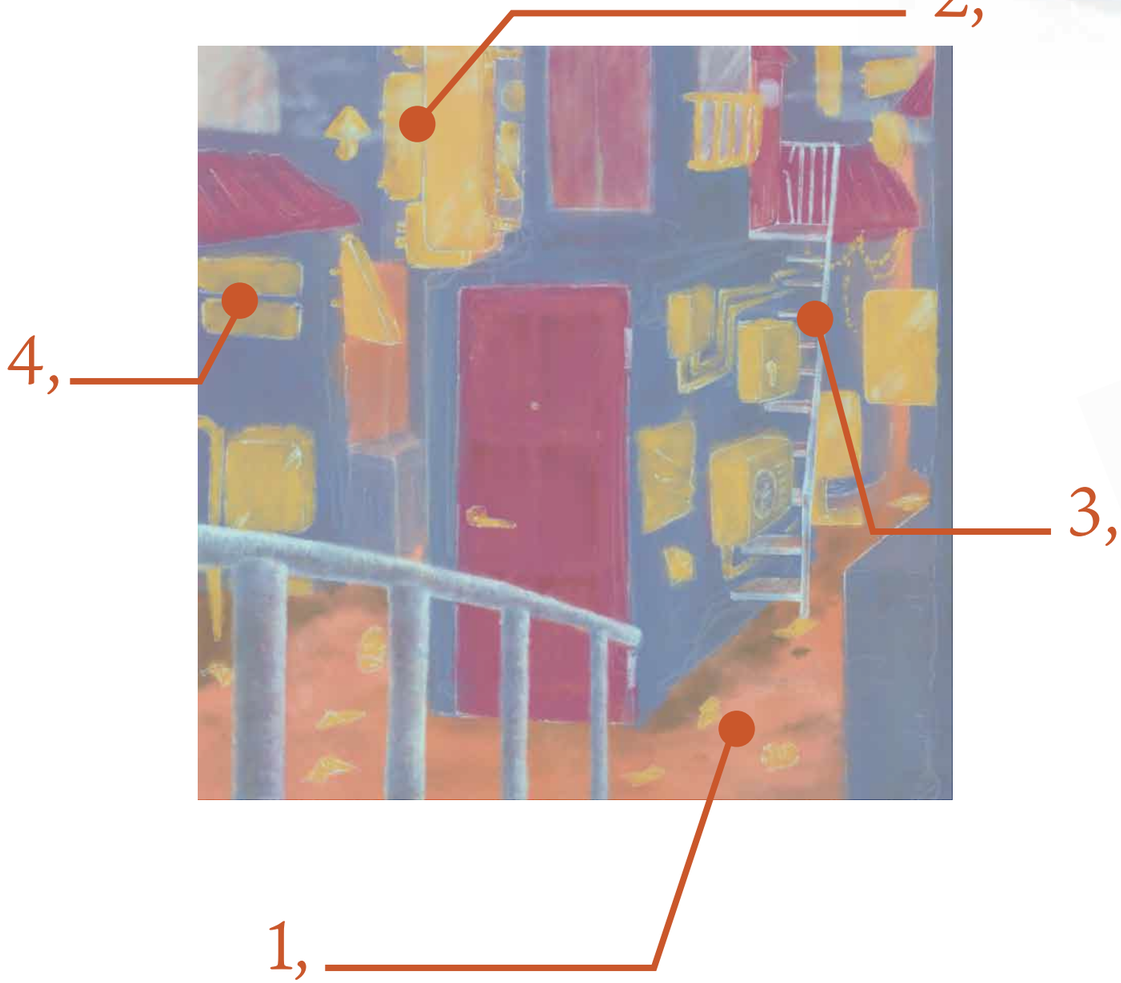
ここはきっと高架下

空腹を満たすためのお店を探していた

目移りするうちに

どんどん奥へと迷い込む

駅、高架下の飲食店街



1, ゴミだらけの道

お世辞にも綺麗と言える道ではなかった。そもそも道幅も異様に狭い。
レシート、空き缶、何かの布切れ、色んなものがそこら中に転がっていた。
ある意味、雑多な街並みによく似合う散らかり具合だった。
ネズミやゴキブリを見かけなかったのは、私が気が付いていなかっただけかもしれない。

2, 渋滞する看板

この街に異様な雰囲気を感じた一番の原因はこの看板の量かもしれない。
多すぎる。いくつもの看板が重なり合うようにそこら中の壁から突き出ていた。平気で道を塞いでいるものもあった。
「これ、一個でも落ちてきたらその下の看板も全部巻き込んで大惨事になるんだろうなあ…」と考えながら見上げていた。
この看板の数だけお店があるのなら、この街は本当に得体が知れない。

3, どうやって登るんだろう…

この階段を夢の中で登った。でもどうやって登ったのだろう。
行手を塞ぐように設置された室外機や謎の箱。到底上に登れそうにない設計。
こんな階段の先にあるあの扉の向こうには何があったのか。私も気になるが、どうにも思い出せない。
今思い出せば不気味に感じるこの階段を意気揚々と登れたのも、こんな異様な雰囲気の街に呑まれてしまっていたからかもしれない。

4, 結局、パン屋さん

空腹が限界に達し、迷いに迷ってパン屋さんに入った。パンが焼きあがる良い匂いがしていたのをよく覚えている。
具体的には思い出せないが、あまり見かけないユニークな惣菜パンが並んでいたことも覚えている。
到底ひとりでは食べきれないような量のパンを購入して、夢の中の私は胸を躍らせていた。
その頃には自分がいる場所が高架下だということを忘れていた気がする。

配色パレット

#3e3014 #37628b #8c1143 #c65a18 #cea71d #574d71 #addfdf

空港で友人を待っていた

いつまで待っても来ないから

一番端のカフェに入ろうとした

あまりにも狭い店内

テーブル席がふたつだけ

カウンターには何も置いてない

昼間なのに薄暗い店内だった

入りづらい雰囲気だったから

扉の外から店内を眺めながら

友人を待った

空港の狭すぎるカフェ

1, 薄暗い店内

私が友達と待ち合わせていた時間はお昼頃だったはず。それでも、何時かわからなくなるほど店内は薄暗かった。
天気も決して悪くないのに、なぜ昼間からブラインドを締め切っていたのだろうか。
店員さんが外にいる人にみられたくないからだろうか、それとも窓と見せかけて何かを隠しているのだろうか。
もう一度全く同じ夢が見られるのなら、あのブラインドをあげてみたい。

2, おじさんの新聞

店内には一人のおじさんで新聞を読みながら寛いでいた。
そのおじさんの新聞を読むスピードがとても早かった。とても文字を読んでいる速さではなかった。
単純に興味のない記事だったのかもしれないが、最後のページまで読むとまた最初のページに戻って何度か読み返していた。
その不思議な光景を、絵で伝えられないことが悔しい。

3, 何もないのに…

店員のお姉さんはただ黙々とカウンターに向かっていた。でも、カウンターには何も置かれていなかった。
コーヒーを淹れる機械も食器類も精算機も、何もない。
少なくともガラス張りのドアの外からは何も見えなかった。
不気味、とまでは言わないが、お店に入ることをやめた理由はここにもあったのかも知れない。

4, ここは空港

このカフェの記憶ばかりが残っているが、私は空港で友達を待っていて、このカフェは空港の中のカフェのはず。
他にも多くのお店が立ち並んでいたはずなのだが、どうにもこのカフェ以外のことが思い出せない。
寝ぼけ眼で書いた夢の内容のメモには「空港も狭い、変」と書いてあった。
もしかしたら空港自体も薄暗い雰囲気だったのかもしれない。できることなら、v もう一度この空港の夢を見てみたい。

配色パレット

#546474 #8595a5 #bcccdc #e2e6ea #eaceca #f6b6b4 #878289

コラム

夢占いの歴史

見た夢から今後の出来事や運勢を占う『夢占い』。起源は、旧約聖書の記述とされていますが、正確にはわかっていません。初めて『夢占い』と聞くと、何やら怪しいものではないかと身構えてしまうかもしれません。しかし、実は夢占いには科学的な根拠を見出した学者もおり、夢は自分自身でも気づくことのできない深層心理を知れるとして、医療にも使われているんです。
そんな夢占いの歴史をまとめてみました！

夢占いの始祖

ヨセフの夢占い

旧約聖書の中で有名な夢占いの話です。ヨセフは、夢占いで現実の出来事を言い当ててしまうという不思議な力を持っていました。17歳の時、ヨセフは自分が見た夢を兄弟たちに語りました。それは、「父と母、兄弟たち皆が自分にひれ伏すようになる」というものでした。家族を侮辱するような夢の話に兄弟たちは腹を立て、このことがきっかけでヨセフは奴隷としてエジプトへ売り飛ばされてしまいます。さらに、奴隷として買われた先では有らぬ罪を着せられて、投獄されてしまいます。

しかし、ヨセフは牢獄の中でファラオの給仕とパン職人の二人に出会い、運命が廻り出します。ある日、二人はそれぞれ見た夢の話をヨセフに聞かせました。給仕は、「ぶどうの木に３本の小枝があり、そこから芽が出て実がなり、この実ったぶどうを絞ってファラオの杯に注いだ。」という夢でした。これに対しヨセフは、「３本の小枝は３日後のこと、ファラオの杯にぶどうの汁を注ぐことは、ファラオが元の職に戻してくれることだ」と予言しました。一方、パン職人は、「白いパンを入れた３個のカゴが頭上にあり、一番上のカゴにはファラオのために全ての食糧が入っていたのに、鳥たちが全て食べてしまった。」という夢でした。ヨセフは、「３つのカゴは３日後のこと、頭上にあるのはファラオが貴方を死刑にして、鳥たちが貴方の死肉を食べるということだ」と予言しました。そして３日後、給仕とパン焼きは共にヨセフの予言通りになりました。

それから２年後、ファラオは２つの夢を見ました。ひとつは、「ファラオがナイル川に立っていると、ナイル川から７頭の美しい雌牛があがってきて草を食べ始めた。しかし、ナイル川から７頭の痩せこけた雌牛があがってきて、先にあがってきた美しい雌牛を食べてしまった。」というものだった。二つ目の夢は、「一本の茎から豊かに実った７つの穂がありましたが、東風に焼かれた７つの穂が出てきて、先に実った穂を飲み込んでしまった。」というものでした。心配になったファラオは賢人や魔術師、祭司などに夢解きをさせましたが、誰もできませんでした。そのとき、ファラオの給仕が牢獄で体験したヨセフの夢占いを思い出し、ファラオに進言したのでした。ファラオに呼び出されたヨセフは彼の夢を聞き、「どちらの夢もエジプト全土の７年間の豊作と、その後にくる７年間の飢饉を現している」と予言しました。これを聞いたファラオは、ヨセフの夢占いを尊重し彼に宰相の地位を与えました。ヨセフの予言は的中しましたが、豊作の７年間に穀物を蓄えていたので、エジプトの人々は飢饉を乗り越えることができました。

その後、ヨセフは莫大な財産と地位を手に入れました。その当時、ヨセフを売り飛ばした兄弟たちも飢饉に苦しんでおり、ヨセフのもとに助けを求めてやってきました。ヨセフは、改心した様子の兄弟を見て、彼らを許し、エジプトの領地を分け与えて移住させました。こうして17歳のときに見た夢も現実のものとなったのです。

科学で夢を読んだ

フロイトの夢診断

それまで不思議な力と思われていた夢占いを、疑似科学から科学へと変貌させたのが、オーストリアの精神医学者であるジークムント・フロイト (Sigmund Freud) が 1900 年に発表した『 夢診断 (Die Traumdeutung, The Interetation of Dream) 』という夢に関する精神分析学の研究です。フロイトは、夢について初めて精神分析学や心理学に裏付けられた科学的な研究を行い、『抑圧されたリビドー (Libido : 根本的な欲望) が、無意識に基づいて統合されたものが夢である 』と解釈しました。

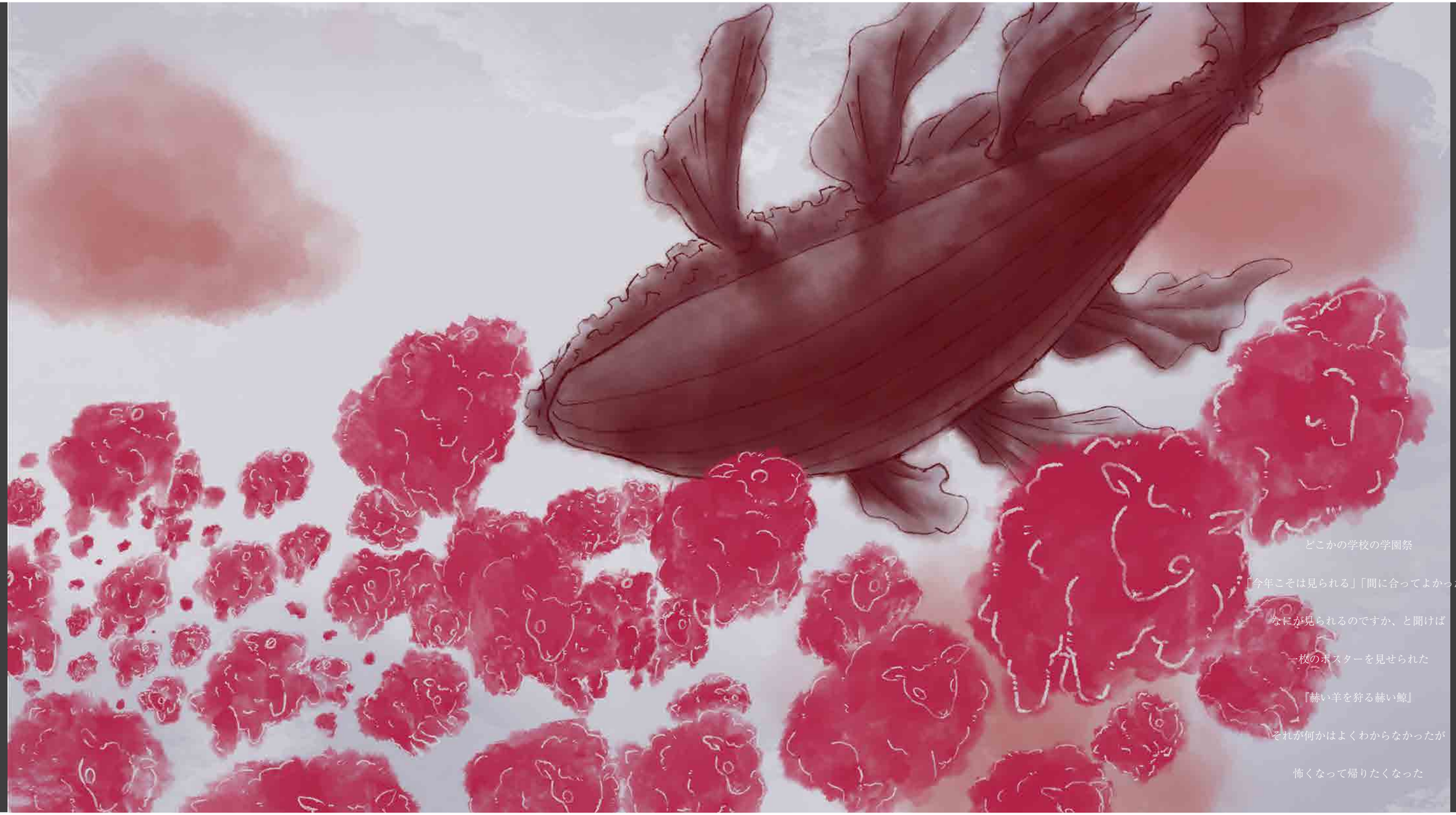
実社会において、リビドーが抑圧されることにより、ストレスは無意識の中に溜まっていきます。それらが睡眠中に開放され、頭の中でイメージ化されたものが夢であるとフロイトは解釈しました。つまり、夢は無意識によるリビドーの表現であり、夢には本人の深層心理が表現されていると考えました。特に、フロイトは性のエネルギーが夢を見る活力源となっていると考え『性的欲望』の抑圧により、無意識の中にストレスを溜め込み、これが夢となって現れると解釈しました。フロイトは、実際に患者の見た夢の内容からその人の精神状態を解析し、治療に活用していました。

夢の真相に迫った

ユングの夢診断

フロイトと並んで夢診断の世界で有名なのが、スイスの精神科医であり心理学者のカール･グスタフ･ユング（ Carl Gustay Jung ）です。彼は、フロイトの論文に共感し親交もありましたが、次第にフロイトと理論的な違いを認識し、袂を分かつようになりました。

フロイトは『性的欲望』が夢の活力源と解釈しましたが、ユングはリビドーにはもっと広く様々な意味があると反論し、『様々な欲求に変換可能な心的エネルギー』と解釈しました。この解釈は、現在の精神分析学の正式な解釈として定着しています。また、ユングは、夢は人が抱えているコンプレックスなどの精神的な問題や様々な真理を溜め込んだ『無意識』を表現したものであり、無意識からのアドバイスだと考えました。つまり、日中は無意識の中に閉じ込められた心理が、眠りの中で開放され、夢となって様々な形で現れると考えたのです。



どこかの学校の学園祭

「今年こそは見られる」「間に合ってよかった」

なにが見られるのですか、と聞けば

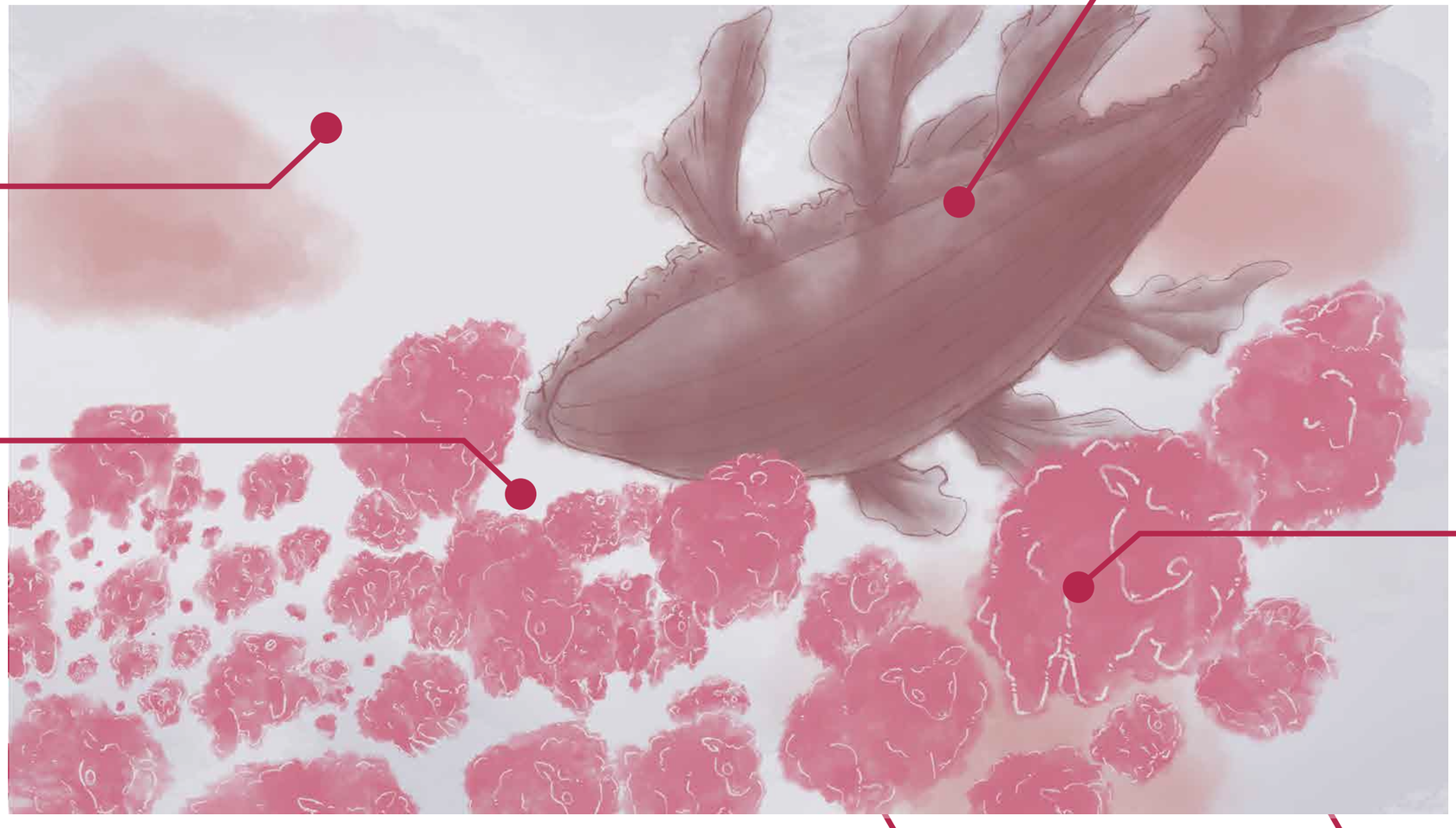
一枚のポスターを見せられた

『赫い羊を狩る赫い鯨』

それが何かはよくわからなかったが

怖くなって帰りたくなった

赫い羊を狩る、紅い鯨



1, 赫い羊

気が付いたら空一面を赫い羊たちが覆っていた。まるで雲のようだった。
幻想的とも捉えられるだろうが、この夢の中で私は異様な光景にひたすら恐怖を感じていた。
夢を見たときに寝ぼけ眼で記入したメモには「赤い羊」ではなく、「赫い羊」と書かれていた。
「赫」という漢字には「怒り」という意味もあるらしい。あの羊たちは何かに怒っていたのだろうか。

2, 紅い鯨…？

大量の赫い羊たちの前に突然現れた鯨、のような化け物。
色は羊たちより赤黒く、より一層不気味な雰囲気を掻き立てていた。
金魚のようにひらひらとなびくひれは綺麗だったが、ひれの形も数も、私が知っている鯨ではなかった。
ゆっくりゆっくり尾ひれを動かす風貌から、不気味さの中に貫禄を感じた。あの生き物は何なのだろうか。

3, 羊たちと鯨はどこから？

あっという間に空を埋め尽くした羊たち。とんでもない数の羊だった。
いったいどこからやってきたのだろう。空の上に牧場があるのだろうか。
鯨も、あんなに大きな生物が一体どこに身を潜めていたのだろう。空のどこかに大きな住処があるのだろうか。
それに両者とも同じ日に姿を現したのは何故だろう。謎ばかりが残る夢だった。

4, 不穏な空気と不気味な音

前述の通り、とにかく不気味な雰囲気が漂っていた。空気は生ぬるく、空もどんよりとした天気だった。
鯨の声らしき音が付近の建物に反響して何重にも広がっていったのを覚えている。
地鳴りのように低く、自身の身の危険も感じるような不気味な音だった。
これから何か恐ろしいことが始まるんだ、逃げなくては、と思ったところで目が覚めてしまった。

5, 学校祭

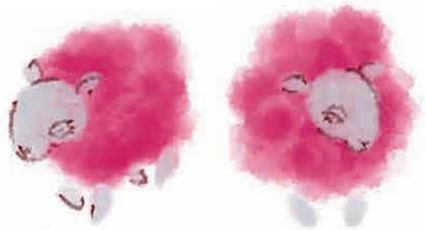
そもそもこの光景を見たきっかけは、夢の中で私が訪れたどこかの学園祭だった。
催し物の一つでこの「赫い羊を狩る紅い鯨」というものがあったのだ。
「今年こそは見られる」「ようやく見られる」と皆口々にいっていたので、もしかしたら伝統行事なのかも知れない。
それにしても、こんな大規模で不穏な催し物を皆が心待ちにするなんて、一体どんな学校なのだろうか。

6, 怖い夢

この夢から目が覚めたとき、慌てて夢の内容をメモしたことを覚えている。
当然どんどん夢に関する記憶は薄れていったが、とにかく怖かったという記憶だけはずっと残っている。
羊も、鯨も、天気も、空気も、学校の生徒たちの熱気も、とにかく全てが怖かった。
今まで見た夢の中でも、かなり怖い夢だったと思う。気になることも多いが、この夢だけはもう二度と見たくない。

配色パレット

#3f1c1f	#4c1430	#53060c	#b22045	#b16b6c	#a19eb0	#a19eaf



広い広い遊園地

お店もアトラクションも多い

でもなんか怖い

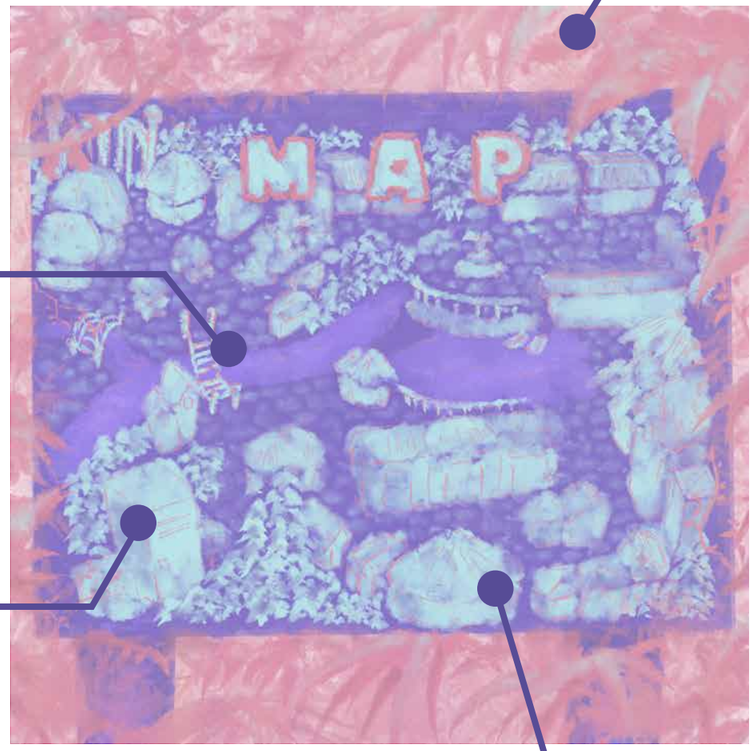
廃れて不気味な雰囲気

遊具も壁も全てが脆い

ちっとも楽しくない

なのに何度もこの場所に来ている

何も楽しくない遊園地



1,

2,

3,

4,

1, 危ない橋

とにかくこの橋が危ない。いつ落ちてもおかしくないような橋だった。
繋がれているロープは所々擦り切れており、板も抜けている箇所がある。
夢の中で何度もこの橋を往復したが、その度に怖い怖いと恐怖を感じながら恐る恐る渡っていた。
改修工事が行われないどころか、通行止にもならないのは何か理由があるのだろうか。

2, 客任せのアトラクション

ぼんやりとしか覚えてない乗り物もある中で、このアトラクションだけは鮮明に覚えている。
序盤は遊園地らしく楽しい普通のアトラクションだったのに、途中コンベアの上で脱線してしまったのだ。
待っても助けに来てくれるスタッフは現れず、結局乗客数人が乗り物から降りて後ろから押して何とか降り場まで辿り着いた。
それでも待ち構えていたスタッフは何も心配してくれない。夢とは言え、酷いじゃないかと思った。

3, ７割が待ち列のシアター

このシアターのこともよく覚えている。
とにかく待ち列が長かった。並んでる人に対して、通路の長さが異常なまでに長く狭いのだ。
３割シアター、７割待ち列。
並んだことをひどく後悔したことをよく覚えている。また夢でこの遊園地にいっても、このシアターにはもう行きたくない。

4, 行き届いていない手入れ

この看板に限らず、この遊園地はとにかく手入れが行き届いていない。
アトラクションや、園内の通路、売店に至っても「綺麗な遊園地」と思える場所が全然なかったのだ。
絵には書かれていないが、駐車場も遊園地のものとは思えないほど乱雑な作りだった。
何もかもが中途半端で、夢から覚めて考えてみればとても遊園地とは思えない施設だ。

配色パレット

#d47f7e　#ae5d5c　#addfdf　#bca8ff　#866bdf　#593cac　#472f81

何かから逃げていた

背の高い草原を走り回っていた

ふと気づいたら私の側には

犬か羊かよく分からない生き物がいて

嬉しそうに先導してくれた

草をかき分けた先に邸宅があった

やけに縦長な

モダンなデザインの建物だった

なぜか私は建物の鍵を持っていた

隠れ家

1, 果てしない草原

気が付いた時にはこの草原にいて、無我夢中で走っていた。どこまで走っても同じような景色が永遠と続いていた。
草は腰の高さを超えるほど伸びていて、自分が小さくなったと錯覚してしまうほどだった。
草は所々枯れて黄色に変色していた。余程長い間、人の手が加えられず放置された草原だったのだろう。

2, 犬…？それとも羊…？

実はこの生き物は他の夢にも度々出てきている。
私に懐いている様が大型犬のようだと感じたが、私は現実で犬を飼った経験がない。
思い当たる節があるといえば、実家にいた頃に使っていた抱き枕が黄色の羊だった。
ぼんやりと存在を認知しているだけで、犬なのか羊なのか、はたまた架空の生き物なのか、正体は未だに分からない。

3, 皮肉にも綺麗な夕焼け空

前述の通り、この夢で私は何かに追われて逃げていた。かなり焦って逃げていたと思う。
なのに空がとても綺麗だったことをよく覚えている。
夢を見ている私の心境を映すように、天気がもっと大荒れでも不思議ではないのに。

4, 私の別荘

この建物に入ったとき、初めて入ったような気がしなかった。
詳細は覚えてないが、何か私物も置いてあったので、「ここは私の別荘だ」と分かった。
でも、なんでこんな草原の真ん中に？しかも、大きくてお洒落な建物だけど私の好みとはかけ離れた内装だった。
もしかして、他の誰かの所有物だったかな。

配色パレット

#6b7d83 #b9c9d4 #cce2f0 #9fb59d #516d57 #e7d292 #d5856f

コラム

正夢、逆夢

正夢とは見た夢の内容がそのまま現実で起こるような夢のことであり、これに対して逆夢は見た夢の内容と全く逆のことが現実で起こるような夢のことです。正夢も逆夢も、深層心理により自分の未来を予知する夢なので、広い意味ではどちらも予知夢と言え流でしょう。
未来を予知することなど科学的にありえないと思われますが、正夢や逆夢は現実に起こり得ることです。見た夢と完全に一致することは難しいかもしれませんが、夢に近い出来事や夢とほぼ真逆の出来事は多くの人が体験し得ることなのだそうです。ではなぜ見た夢が正夢出会ったり逆夢であると言う事が起きるのでしょうか。私自身も身に覚えがあり気になったので、詳しく調べて見ました。

そもそも夢はどこから？

夢を見るメカニズム

正夢や逆夢の解説の前に、夢をよく見る人とあまり見ない人がいる理由について解説していきます。睡眠の話でよく聞く「レム睡眠」「ノンレム睡眠」というワードがあります。これは睡眠の深さを表しており、夢をメカニズムにも大きく関係しています。まずレム睡眠時には、記憶や感情の固定と消去をしていると考えられています。このため、レム睡眠が少なくなると記憶が悪くなるので、言語や技能の習熟が悪くなるという実験データが公開されています。一方でノンレム睡眠時には、脳温が下がり脳の代謝量も低下するので、脳を休めている状態と考えられます。それと同時に成長ホルモンの分泌が最も多くなり、細胞の増殖や組織損傷の修復を進めます。夢を見るメカニズムは、このレム睡眠時にリビドーが解放されることで様々な夢をみるとされています。

しかし、夢をよく見るか見ないかの差は、このレム睡眠ノンレム睡眠以外に要因があります。人間の脳には右脳と左脳があり、右脳は感情や直感力、創造力に優れており、左脳は理性や論理、言語能力などに優れています。実は、夢を見ている際の人間の脳波を調べてみると、右脳が活発に活動していることが分かったのです。即ち、夢は右脳の活動で見ている映像なのです。世の中には、右脳が発達した右脳派の人と、左脳が発達した左脳派の人がおり、どちらかと言うと右脳派の人の方がよく夢を見る傾向があるそうです。

科学で解明

正夢、逆夢の正体

ではなぜ正夢や逆夢を見ることがあるのでしょうか。人が起きている間に無意識のうちに収集した記憶や情報は、意識的に収集した記憶や情報に比べはるかに膨大な量になります。脳はレム睡眠中に、それらの膨大な情報を元に未来の予測やシミュレーションを行います。無意識のうちに収集された情報は情報量が圧倒的に多いため、意識的に掻い摘んだ情報よりも正確な予測やシミュレーションである可能性が高く、これが正夢となるのです。しかし、この予測やシミュレーションには、潜在意識の中にある偏見や願望が含まれてしまうこともあります。そういった不正確な情報が夢に入ったりすることで、逆夢を見ることもあるのです。

夢に因果関係が…!?

予知夢とデジャヴ

デジャヴという言葉を一度は耳にしたことがあるでしょう。デジャヴとは、一度も体験したことがないはずなのに、既にどこかで体験したことがあるように感じられる現象です。70%以上の人がこのデジャヴを体験したことがあるという研究結果も報告されています。このデジャヴも実はレム睡眠と関係があるのではないかと、20 世紀末ごろから脳神経学の研究で注目されました。その研究の一つで、レム睡眠中に夢を見る過程で何らかの記憶情報の錯誤、即ち一種の記憶障害が発生し、これが原因ではないかという説が有力になっているようです。しかし、70%以上のデジャヴを経験したことがある人全員が記憶障害を起こしていたという説には多少無理があるようにも感じられます。

夢占いを科学へ変貌させたジークムント・フロイトは、デジャヴは実際に見たり体験したものではなく、過去に見た夢であると説明しました。夢は無意識の中にある情報を基に見るものなので、意識的に思い出せないという解釈です。デジャヴと予知夢を関連付けたこの説を検証することは難しいでしょうが、70% 以上の人が体験した事象であるという事実とも矛盾しないと考えられます。

何れにしても、デジャヴの原因に関する説は様々ありますが、科学的な原因解明はまだされていません。いつかフロイトの説が立証される日がいつか来るかもしれないと考えると、今から待ち遠しく感じますね。

スピリチュアルな考え方も

アカシックレコードの記憶

一方で予知夢の正体について、スピリチュアル的な視点から捉えた考え方も多くあるそうです。代表的なもので、予知夢はアカシックレコードの記憶であるという説があります。アカシックレコードとは、人間のみならず、動植物から惑星、地球や太陽、アメーバや昆虫なども含め、過去から未来までの宇宙の記憶が全て収められているとされる概念です。このアカシックレコードの記憶からインスピレーションを受けて見るものが予知夢なのではないかと言われています。

実際に、かつてアメリカにエドガー・ケイシーという預言者がいました。彼は「眠れる預言者」と呼ばれており、眠っている時にアカシックレコードの記憶を自由自在に引き出す事ができたそうです。彼は予言を的中させるだけでなく、予知夢を医療に用いて多くの患者を救った経歴も持っています。このように、アカシックレコードを読むことができれば未来予知も可能と考えられているのです。

睡眠時は意識が薄れるので、アカシックレコードに繋がりやすいとされており、繋がった際に見えたアカシックレコードの記憶こそが予知夢の正体だと言われています。非科学的な話にも感じますが、アカシックレコードの存在は在るとも無いとも証明されていないので、こういった考え方も夢があって面白いと感じますね。

卒業研究

夢の世界を楽しく共有する視覚表現の研究

研究内容『夢の世界を伝えたい』

私は、夢で同じ場所を見ることがよくあり、その夢の内容を誰かに話したいと思うことがありました。
しかし、夢について調べるうちにこのような定説を見つけてしまいました。

「人の夢の話を聞かされるほど、つまらないものはない」

夢の話はつまらない話題だと取り上げる多くの記事を目にしてしまいました。
そこで、なぜ人の夢の話はつまらないと感じるのか調査しましたところ、いくつかの理由が挙げられました。

・話が長くなりがち
・話の脈絡やオチがない
・想像、共感がしづらい
・上手い返しがわからない
・知らない人ばかり出てくる

・言葉選びや話し方に問題があるのでは？
・伝え方の工夫次第では楽しく共有できる話題になるのでは？

視覚的に情報を伝えられるようイラストを用いれば、夢の世界の話を面白く共有できるのではないかと考え、今回の研究に取り組むに至りました。

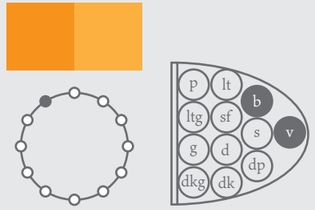
研究の達成目標

『夢の内容を視覚表現で伝え、楽しく共有する』

内容、イラスト制作『夢の世界を伝える表現』

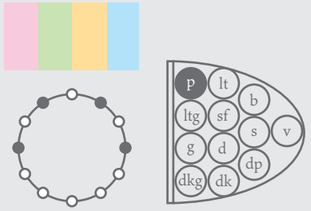
イラスト制作にあたって、見る人に夢の世界の雰囲気が伝わることに重点を置くべきだと考えました。
そこで、以下の配色方法と色彩構成を用いたイラストを制作していくことを考えました。

[カマイユ配色]



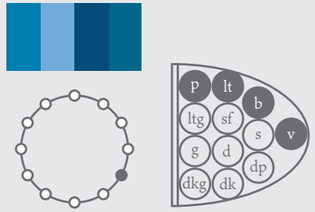
同一・近接色相、同一・類似トーンの中で、一見すると単色に見える微妙な配色。カマイユとはフランス語で単色画法のこと。

[ドミナントトーン配色]



ひとつのトーンで全体を支配することで共通の要素を持たせ、統一感を与える配色方法。

[ドミナントカラー配色]



ひとつの色相で全体を支配することで共通の要素を持たせ、統一感を与える配色方法。

[物の色ではなく、心の色]

左のイラストのように、その物が持つ固有の色、固定概念の色で描く方法では、夢の世界を伝えきれないのではないかと考えました。そこで、右のイラストのように目には見えないフィーリングを伝えるような創造的な色彩構成を主軸に描いていこうと決定しました。

使用するカラーパレットはイラスト毎に変え、作品が並んだ時にそれぞれの世界観が引き立つように配慮しながら、これらの手法を用いることに決定しました。これらの色彩調和や画面構成を活用して、作品全体に統一感と非現実的な雰囲気を持たせるように意識しました。

参考文献

・夢の正体　夜の旅を科学する / アリス・ロブ著
・私の夢日記 / 横尾忠則著
・配色パターンコレクション /iyamadesign 著
・配色パターンブック　写真から作る美しい配色 1000 / ユーリ・ロマニュク著

・Clover 夢占い / https://clover.minden.jp/category/fortune/httpsclover.minden.jp/category/fortune/
・ゆめの夢占い / https://astrology.neoluxuk.com/dream/
・夢分析の心理学 / https://newstyle.link/category37/
・ユニバーサルマナー検定ブログ / https://universal-manners.jp/press_room/post-2023010502
・日本エドガー・ケイシーセンター / https://edgarcayce.jp/
・アンファニズム『他人の夢の話はなぜつまらないのか』/ https://onl.sc/chc9V9b
・イラストレーター　ア・メリカ　『色塗りの時に考える３つの色』/
https://twitter.com/amelicart/status/1536656444866498561?s=21&t=NSDjdlsti_0PJnMpWQh2dA

発行日　　2023 年　1 月 22 日

著者　　関美星
印刷・製本所　　製本直送
表紙カバー・帯　　ソクブリ

長岡造形大学　2023　卒業研究作品